

元気のヒント

◁105▷



徳島大学病院小児科助教

東田 好広

健康

脳神経の病気の一つ「てんかん」は、手足のけいれんや意識が低下する発作を繰り返すのが特徴です。発症の割合は100人に1人といわれ、比較的起りやすい病気です。子どもの頃に発症することが多く、種類はさまざまです。

子どものてんかんの特徴は、けがや病気などをしていないのに、ある年齢になると急に発作が現れるタイプが多いことです。これを「特発性てんかん」といいます。家族の中で同じ症状を起こす頻度が高く、何らかの生まれ持った素質が関連していると考えられます。薬が効きやすく、知能や発達への影響は、ほとんどありません。

子どものてんかん

です。ほとんどの場合、抗てんかん薬によって治まります。幼児期〜小学校ぐらいに発症する「良性小児てんかん」は、脳の中心・側頭部に棘波という異常な脳波がみられます。夜間、眠った直後に顔面や口にけいれんが起ります。思春期までに発作はなくなり、自然に治癒するとされます。

「若年ミオクロニーてんかん」は思春期に発症し、ごく短時間のけいれんが手足に起り、持っている物を落としたり、転倒してしまったりすることがあります。発作は、薬で治まることがほとんどですが、飲むのをやめると再発しやすい傾向があります。

生まれてくる前後や乳児期の早い段階で脳神経に障害を受けた場合は、治療が効きにくい「症候性てんかん」を発症することがあります。代表的なのは「ウエスト症候群」です。お座りができる赤ちゃんの場合、お辞儀をするように頭部を下げ、同時に両手

発育に影響するケースも

「特発性」と「症候性」の違い	特発性	症候性
	<ul style="list-style-type: none"> 生まれつきの素質が関係している 画像検査などでは脳に異常がない 発症する年齢がほぼ決まっている 内服薬などの効果が得られやすい 薬の中断により再発するケースも 	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの脳神経障害が原因になる 治療の効果が比較的得られにくい 知能や運動の発達に影響しやすい

を上げる発作を数秒ごとにも何度も繰り返す。子どもてんかんは、ほとんども治療しないで治す。一見、強い発作にはるものから、早期治療が見えないのですが、放置必要なものまで幅がありすると発達が止まったり、はつきりと診断できたり、後退したりする恐れもあります。はつきりと診断できたり、後退したりする恐れもあります。はつきりと診断できたり、後退したりする恐れもあります。はつきりと診断できたり、後退したりする恐れもあります。

(第2土曜日に掲載)

種類ごとに異なる発作